

国際水田・水環境ネットワーク (INWEPF) について  
 International Network for Water and Ecosystem in Paddy Fields (INWEPF)

農林水産省農村振興局設計課土地改良技術室 宮崎雅夫、小野寺文彦、堤酉介  
 Overseas Land Improvement Cooperation Office, Design Division, Rural  
 Development Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries  
 Masao Miyazaki, Fumihiko Onodera, Yusuke Tsutsumi

1. 国際水田・水環境ネットワークの概要

2003年3月、農林水産省は第3回世界水フォーラム(京都)の一環として、国連食糧農業機関(FAO)と共催で、農業に関わる世界各国の大臣が参加する「水と食と農」大臣会議を開催した。同会議では3つの挑戦「食料安全保障と貧困軽減」、「持続可能な水利用」「パートナーシップ」を掲げた大臣勧告が採択された。

この3つのチャレンジの達成に向け、2004年11月、我が国農林水産省が中心となり、アジア・モンスーン地域を中心に水田農業を実施している国<sup>1</sup>及び国際機関が参加する「国際水田・水環境ネットワーク (INWEPF)」を創設した。INWEPFは、水田農業に関わる政府関係者等が集まり知識と経験を共有し、水田農業発展のために議論を行うフォーラムである。そのため、INWEPFの活動は、一般公開の「シンポジウム」、INWEPFの活動方針等を決める「運営会議」、各テーマに沿って作業・議論を行うINWEPFの根幹となる「ワーキンググループ」から構成される。これまで、我が国は、水田農業が有する多面的機能及び持続的な水管理に関する国際的な理解醸成を図るため、「ワーキンググループ」の活動をリードし、INWEPFとして世界水フォーラム等の国際会議の場で、情報を発信してきた。「ワーキンググループ」のテーマは、その時の課題に合わせ、幾度か改編されてきた。現在、図-1に示すように、我が国は「ワーキンググループ3」をリードし、ライフサイクルコストを考慮した施設整備について議論を進めている。

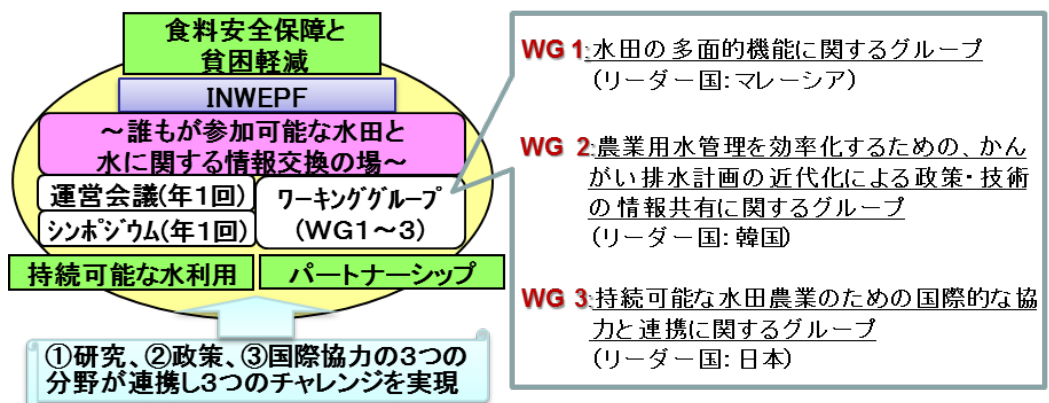


図-1 INPEWFの体制図

<sup>1</sup> 2017年現在、17ヶ国がINWEPFメンバー国：日本、韓国、中国、マレーシア、カンボジア、スリランカ、ネパール、タイ、インドネシア、ベトナム、ミャンマー、フィリピン、ラオス、バングラディッシュ、エジプト、インド、パキスタン

INWEPF では、毎年1回、各国持ち回りでシンポジウム及び運営会議を開催しており、2016年の第13回 INWEPF シンポジウム及び運営会議は、「水田農業における気候変動による洪水や干ばつ、生態系への影響」というテーマで、カンボジア王国のプノンペンで開催された。

「シンポジウム」では、日本（近畿大学八丁教授）、カンボジア、フィリピンから基調講演が行われ、その後、技術セッションと政策セッションに分かれ、INWEPF 加盟国、関係国際機関（IWMI、MRC 等）に所属する13名から水田農業に係る各種取り組みが発表された。本シンポジウムは、INWEPF 加盟国、関係国際機関（IWMI、MRC）の他、研究機関や大学など、200名が参加する盛大な「シンポジウム」となった。また、運営会議では、各「ワーキンググループ」の活動結果が報告された。2017年11月には、フィリピンにて、第14回 INWEPF シンポジウム及び運営会議が開催される予定である。

今後、INWEPF としては、2018年に開催予定の第3回アジア太平洋水サミット（ミャンマー）及び第8回世界水フォーラム（ブラジル）に向けて積極的に議論を行い、同会議の場で情報発信を行う予定である。



シンポジウムの状況



近畿大学 八丁教授の基調講演

## 2. PAWEES・INWEPF 国際会議の合同開催

2018年11月20日～23日、奈良県にて、PAWEESの国際学会と併せて、第15回 INWEPF シンポジウム及び運営会議を開催する予定である。会場は奈良市の「奈良春日野国際フォーラム」を予定している。初の両組織の合同開催を通じて、水田・水環境に関する政策・技術・研究成果等を共有し、世界の水田農業発展のために有益な場にしていきたいと考えている。



奈良春日野国際フォーラム 晝



シンポジウム会場（能楽ホール）